

強者の戦略

2020年度 東大地理 第3問〔問題編〕

東大の第3問では日本の都市・人口に関する問題が頻出で、今年も出題されました。こちらはB問題でしたが、A問題ではドイツの都市・人口に関する問題が出題されました。どちらの問題もレベルが高いため、基礎力から応用力まで兼ね備えた実力でないと高得点は狙えないと思います。では、今の力でどれだけ太刀打ちできるのか、この1週間で頑張ってみてください。

【2020年度 東京大学 文科前期 第3問】

ドイツと日本の人口の動向に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は、解答用紙の(ハ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問A

表3-1は、ドイツの州別の人口増減率と2016年時点の州別人口を示したものである。

- (1) 次の文は、ドイツの3つの州について、それぞれの特徴を説明したものである。ア～ウは、表3-1および図3-1の番号5, 6, 16のいずれかである。該当する州の番号をア～ウのように答えなさい。

ア この州は、豊富な石炭資源をもとに、製鉄や化学といった重化学工業を中心とした工業都市が東西に連なり、コナベーションを形成していた。現在は、ライン川沿いの都市群が南北軸を形成し、ヨーロッパにおける重要な中心地の1つになっている。

イ この州は、エルベ川の上流部に位置し、19世紀はドイツ工業の中心地域の1つで、繊維工業が栄えていた。州内には、2つの中心都市があり、1つは古くから交通の要衝で見本市の開催地、商都として栄え、もう1つは現在の州都で、かつての王国の宮殿があり、両都市とも、世界各地から多くの観光客が訪れる。

ウ この州の人口の大半は、2つの主要な河川にはさまれた平野部に集中している。国際空港があり、鉄道や高速道路の結節点にもなっている。州最大の都市は、欧州中央銀行の本部が置かれるなど、金融都市として栄え、ドイツでは珍しく超高層ビルが林立している。

- (2) 1990年～2000年にかけて、どのような人口増減率の地域差がみられるか、その特徴と要因として考えられることを2行以内で述べなさい。

- (3) 1970年代から1980年代にかけては、西部ドイツのなかで、人口増減率の南北格差がみられた。これに対し、2000年代以降になると、南北格差は顕著ではなくなっている。こうした変化がみられるようになった要因として考えられることを、以下の語句をすべて用いて3行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

国際競争力 サービス経済化 産業構造

強者の戦略

(4) 2000年～2010年と比べ、2010年～2016年には、ドイツの多くの地域で、人口減少から人口増加に転じたり、人口減少率が小さくなるといった変化がみられる。そうした変化の要因として考えられることを1行で述べなさい。

表3—1

番号	州名	人口増減率(%)				人口(千人)
		1970年～1980年	1980年～1990年	1990年～2000年	2000年～2010年	
1	シュレースヴィヒ・ホルシュタイン	4.0	0.6	6.2	1.6	2,882
2	ハンブルク	-8.3	0.4	3.8	4.1	1,810
3	ブレーメン	-5.6	-1.7	-3.2	0.2	679
4	ニーダーザクセン	1.9	1.8	7.3	-0.1	7,946
5	ノルトライン・ヴェストファール	0.3	1.7	3.8	-0.9	17,890
6	ヘッセン	3.2	2.9	5.3	0.0	6,213
7	ラインラント・プファルツ	-0.5	3.3	7.2	-0.8	4,066
8	ザールラント	-4.9	0.7	-0.4	-4.8	997
9	バーデン・ヴュルテンベルク	3.4	6.1	7.1	2.2	10,952
10	バイエルン	3.5	4.8	6.8	2.5	12,931
11	メクレンブルク・フォアポムメルン	0.8	-1.0	-7.7	-7.5	1,611
12	ベルリン	-4.7	12.6	-1.5	2.3	3,575
13	ブランデンブルク	0.1	-3.1	0.9	-3.8	2,495
14	ザクセン・アンハルト	-4.4	-6.6	-9.0	-10.7	2,236
15	テューリンゲン	-1.1	-4.4	-6.9	-8.1	2,158
16	ザクセン	-4.5	-7.9	-7.1	-6.3	4,082
	ドイツ全体	0.4	1.7	3.1	-0.6	82,522

表中の州名の番号は、図3—1の番号と対応している。

ドイツ連邦統計局資料による。

強者の戦略

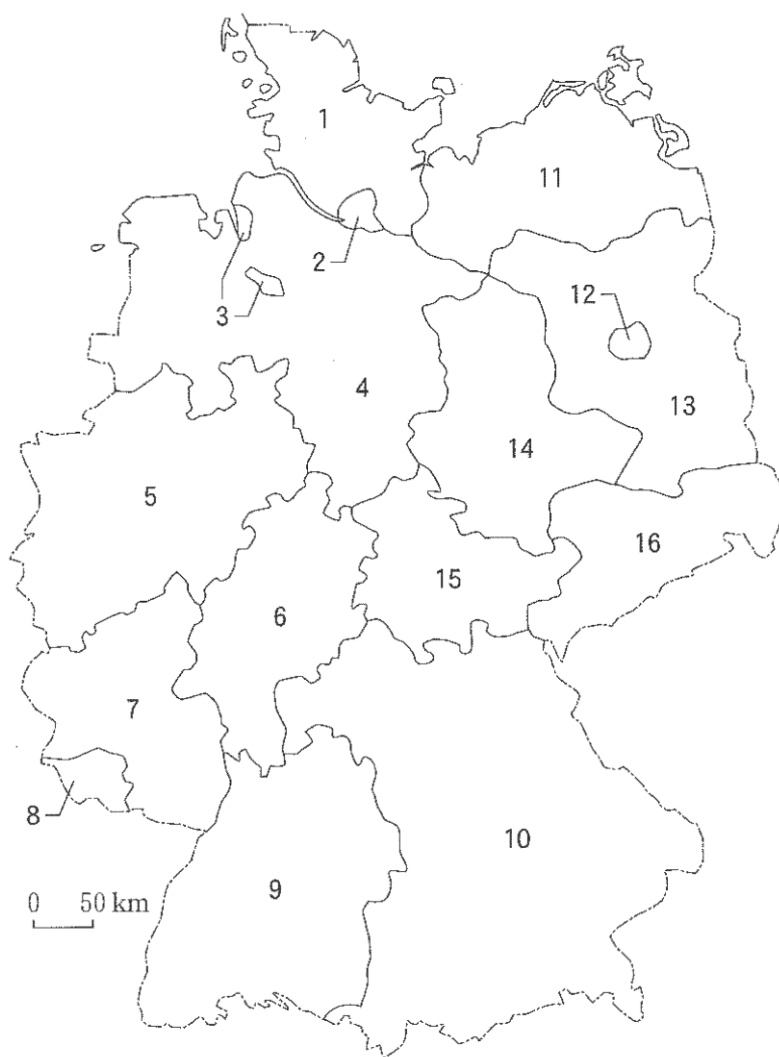


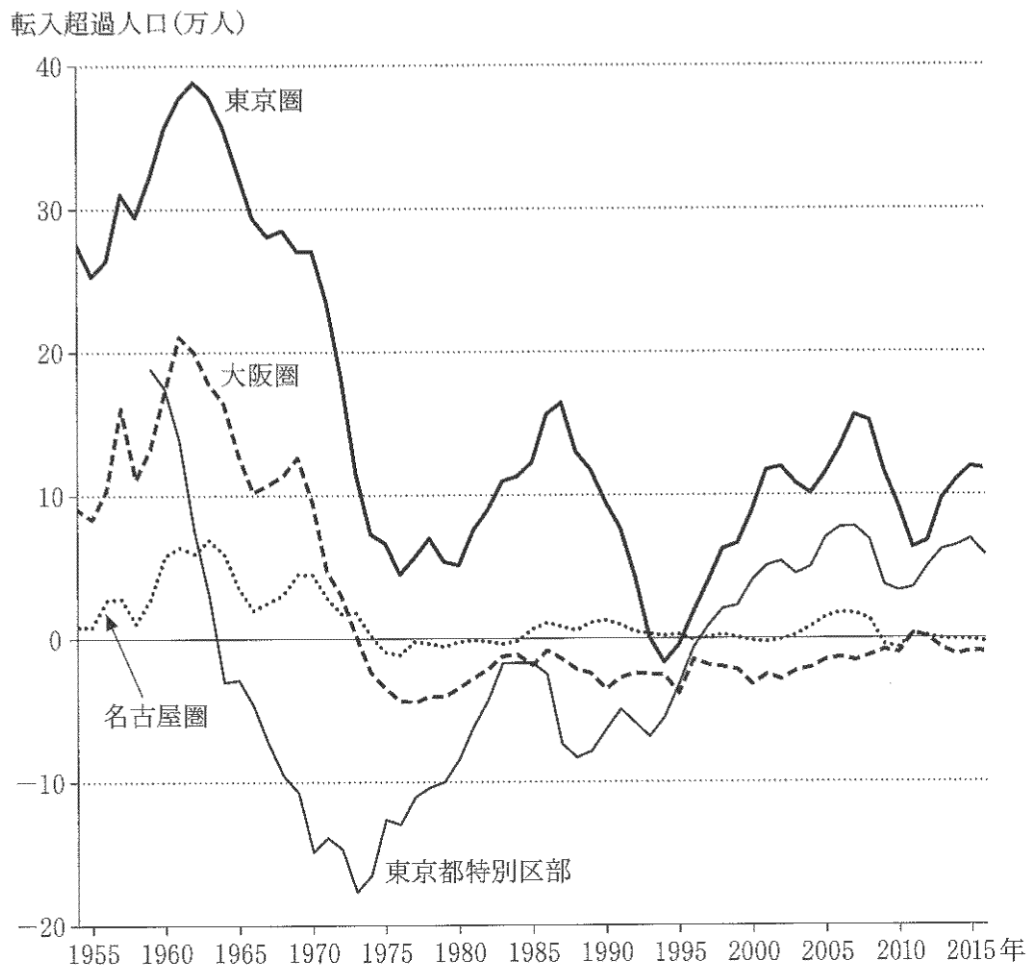
図 3—1

強者の戦略

設問B

図3-2は、三大都市圏と東京都特別区部の転入超過人口の推移を表したものである。三大都市圏とは、東京圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)、名古屋圏(岐阜県・愛知県・三重県)、および大阪圏(京都府・大阪府・兵庫県・奈良県)である。

- (1) 1960年代前半をピークに、人口が三大都市圏に集まってきた理由を、産業構造の変化と産業の立地の観点から、2行以内で述べなさい。
- (2) 三大都市圏における転入超過人口の動向が、1980年代以降、都市圏間でどのように異なっているか、その理由として考えられることとあわせて、3行以内で述べなさい。
- (3) 図3-2は、1990年代初めを境として、東京圏内部における人口分布の空間構造が変化していることを示唆している。その内容を2行以内で述べなさい。



住民基本台帳人口移動報告による。

図3-2